

◇大学地域連携事業―地域活性のための講演活動―

[はじめに]

栄養クリニックが開設された平成20年の3月に、京都女子大学は東山区役所との間で「東山区役所・京都女子大学協定締結」を取り交わした。以来、さまざまな連携事業が展開され、栄養クリニックもその一端を担っている。そして、平成27年10月に京都女子大学に「地域連携研究センター」が設置された。教育・研究を目的とした大学附属機関の栄養クリニックは、より多くの一般市民の方々に食生活や健康に関する広報活動を行っている。本年度は「地域連携研究センター」を通じて下記の2件の講演依頼を受け、イベントに参加した。

・京都女子大学 地域連携研究センター開設シンポジウム

―地域とともに「女性が拓く地域社会の未来」―

日時：平成27年10月3日（土） 13：00～15：30

場所：京都市東山区総合庁舎 北館3階 大会議室

「内容」地域・産業界・市民との連携をより一層深め、社会貢献を組織的に推進する目的で、地域連携研究センターが設立された。京都を中心とする地域市民に広く周知することを目的に開設記念シンポジウムを開催し、地域社会のために本学が果たす役割・期待される役割を市民とともに考えるためのイベントが開催された。

地域連携研究センター長、学長の挨拶、市長の祝辞の後、第一部として、東山区長と京都府警察本部交通企画課交通戦略室長より本学への期待が述べられ、本学からは、栄養クリニック、発達教育学部、現代社会学部から各1名ずつ、現在、地域住民と連携して取り組んでいる主な活動事業について紹介があった。

栄養クリニックからは、副栄養クリニック長が参加し、栄養クリニックの設立目的「食を通して、地域住民の食と健康に関する啓発活動を行うこと、市民参加型の事業に管理栄養士を目指す学生が参加して、管理栄養士に必要な知識と技術を学ぶ教育を行うこと」と、現在実施している主な事業内容「各種身体計測による個人および市民を対象とする栄養アセスメントおよび栄養相談、生活習慣病対策の健康料理教室、子育て支援の親子料理教室・偏食・アレルギー対応の料理教室、高齢者支援の料理教室、京都市・東山区・東日本大震災被災地との連携活動、卒業生対象の生涯学習・栄養相談実践講座、食の専門家を対象とする研究会、附属小学校スクールランチと学生生活支援の料理教室や管理栄養士課程の学生の教育などの取り組み」を紹介した。家政学部からは、空き家、団地再生のためのリニューアル、ごみ処理についての活動、発達教育学部からは「たんぽぽ広場」での人形劇、現代社会学部からは、住民の生活調査への取り組



みなどが紹介された。

第二部のパネルディスカッションでは、阪急電車KK、招徳酒造KK、修道自治連合会長から地域で取り組んでいる地域活性のための事業紹介と大学への期待が述べられ、大学からは発達教育学部、文学部、法学部、家政学部、現代社会学部を代表する各1名がそれぞれの専門領域から地域活性のために役立つ大学の役割について述べられた。



時間の都合上、地域側と大学側での意見交換が十分にできなかったが、シンポジウム終了後に、興味ある対象者間で交流をもつことができた。

・地域で一緒に子育て・親育て 第3弾

講演「食育の大切さを見直す」～楽しい食事で、心身の健康づくり～

日時：平成28年2月16日（火）10：00～12：00

場所：京都市東山区総合庁舎 北館3階 大会議室

「講演開催の主旨」平成27年1月に「京都市未来子どもはぐくみプラン」が策定され、子どもを社会の宝として、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくりの取り組みが進められている。東山区でもこの計画に基づく施策展開の一環として、東山区内児童福祉関係者および市民、約100名を対象した講演会の開催が企画された。東山区より、本学の地域連携研究センターを通して、栄養クリニックに講師依頼があった。

「講演内容」現在、食育をどのくらい理解し、実践しているかをまず、各自チェックした後、食育基本法が制定された背景を一緒に考える。そして、ライフステージ別の食育のポイントを一緒に考える。乳児期では、特に味覚形成や生活リズムの形成、育児＝育自 → 学童期は食習慣の完成期、食事はメンタル的な影響が大きいこと（食べ物や味は、舌ではなく脳で認知しているため、さまざまな問題が発生する） → 思春期のやせ願望、食への自立期 → 成人期の生活習慣病予防対策 → 高齢期の健康寿命の延伸などを考える。

食育は生まれたときから間断のない継続した取り組みで、次世代に継続して実施すべきものであること、共食の大切さを見直し、日本を元気にする子どもを家庭での毎日の食卓で育み、巣立っていく社会をみんなで支え合っていく環境づくりの大切さなどを参加者と一緒に考える。

（木戸詔子）